

決算討論

〔一般会計〕

一般会計決算に対し、4名が討論を行いました。



―反対討論―

日本共産党吉川市議員団

雪田 きよみ 議員

当議員団は昨年、5回にわたり新型コロナウイルス対策の要望書を提出した。3月末と4月初旬にはPCR検査の

充実、発熱外来の設置を求めたが、PCR検査センターが設置されたのは5月下旬。市長は、医療従事者・医師会と日常・定期的に直接意見交換し、現状や課題を分析し、対策を練るべきだった。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金約6億4千万円余の事業が行われたが、約46%が「関連」。本当にコロナ対策として使われたかは疑問。関公園整備に4千万円を費やしたが、トイレ改修など必要な事業が実施されていない。

―賛成討論―

未来会議よしかわ

稲葉 剛治 議員

令和2年度は新型コロナウイルスの感染が世界的な広がりをみせ、私達の生活、市政運営に大きな影響を与える一年となりました。

市は、「生命を守る」「生活

を支える」「地域経済を後押しする」をコロナ対策の3大理念として施策を展開してきました。

感染拡大防止策徹底の上、コロナ禍でも事業の目的をどのように達成できるか、できることを考えるという姿勢が表れたと捉えています。前例のない事態に置かれた時に組織の真価が問われると考えます。どのような状況に置かれても、一貫性を保った市政運営に引き続き取り組んでいただくことを期待しています。

市民の会・無所属

伊藤 正勝 議員

コロナに明けコロナに暮れた一年。吉川市には国から83億3千万円余のコロナ予算配分。決算総額は3百億4千万円余の規模に。小中学校の一斉休業。緊急事態宣言。マスク、消毒液。3密の回避。検査所設置。支援の各種給付金補助金。最大は一人当たり10万円の給付。吉川では72億3千万円。9月までにほぼ全市民に。オンライン授業も想定

し児童・生徒一人1台端末配備。WiFi。公共施設のトイレ洋式化や防災・備蓄物資の見直しも。恒例のイベントは軒並み中止。通常業務も工夫し総力で向き合った一年。次年度は後世の「記録」となるコロナの総括報告を期待。

公明党吉川市議員団

五十嵐 恵千子 議員

令和2年度は猛威を振るう新型コロナウイルスとの戦いの1年間で、その戦いは現在も続いている。国では「国民の生命と暮らしを守る」との1点で3度にわたる補正予算編成が行われる中、当市も基礎自治体として地方創生臨時交付金を活用し、新型コロナウイルス拡大防止に努めながら、特別定額給付金10万円の支給を始め、各種の給付金・支援金事業や、暮らしに密着した新規事業の展開、市民へのワクワクン接種の準備を進める等々、未曾有の1年となった。数々の取組みと、昼夜にわたる入念な準備の賜物であると、職員・関係各位の皆様へ感謝。高く評価し賛成とする。

〔国民健康保険特別会計〕
国民健康保険特別会計決算に対し、1名の議員が討論をおこないました。

―反対討論―

日本共産党吉川市議員団

遠藤 義法 議員

国民健康保険は、他制度と比較すると年齢構成が高く、所得が低い割に保険税負担が重くなっています。市の国保会計だけで解決できない構造的な問題を抱えています。

18年度からの都道府県化は、医療費の縮減や一般会計からの繰り入れゼロを強要していますが、構造的な問題は解決できません。一般会計繰り入れは、20年度で2割削減され、財源不足の繰り入れは17年度からゼロです。国保会計の低所得者向けに市が補填するのは当然であり、国民の医療を受ける権利を保障する重要な社会保障制度です。国の補助額を増やすこと、さらに市の繰り入れ減を見直すべきです。